opusdei.org

52. ミラノ勅令と は?

彼は歴史上最初のキリスト教 徒の皇帝として歴史に名を連 ねています。

2016/09/28

四世紀の初め、再びキリスト教徒は激しく迫害されました。皇帝ディオクレティアヌスはガレリウスと共に303年に「大迫害」として知られている弾圧を行います。それは、キリスト教が広がることで国家の統一が危機にさらされると考えた皇帝が、

その統一を回復する目的で行ったも のでした。この弾圧で命じられた事 柄は、たとえば:キリスト教の教会 を取り壊すこと、聖書を焼き捨てる こと、教会の権威者たちを殺害する こと、キリスト教徒を公職から追放 し市民権を剥奪すること、神々に生 贄を捧げなければ死刑に処するこ と、などでした。キリスト教徒を根 こそぎにするための方策が巧くいか なかったので、ガレリウスは寛容と 政治的な都合を考えて、311年4月30 日に寛容令を発布します。これによ り、キリスト教に対する弾圧は終了 し、キリスト教徒の法的な存在が認 知され、集会を開く自由や教会を建 設する自由が認められました。

うこうしているうちに、コンスタンティヌスは西方の皇帝に選ばれました。312年にマクセンティウスを打ち破り、翌年2月にミラノで東方皇帝のリキニウスと会見しました。二人は、様々な事柄を協議しますが、

その中で、キリスト教徒の取り扱い についても話し合いました。そし て、キリスト教に有利な法令を発布 することで合意しました。この会談 の結果は「ミラノ勅令」として知ら れるものですが、二人の皇帝がミラ ノで発布した勅令は存在しなかった と考えられています。ミラノで合意 した内容は、リキニウスが帝国の東 方で発布した勅令で知ることが出来 ます。我々が手にすることが出来る 文献は、皇帝が313年にローマ帝国 属州の総督宛に送った書簡です。こ れについて、カイサリアのエウセビ ウス(『古代教会史』10.5)とラク タンティウス(『迫害者たちの死』 48) が、それぞれ取り上げていま す。この勅令の最初の部分では、全 市民の信仰の自由を規定し、結果と してキリスト教徒もこの自由を享受 する権利が明確に認められていま す。その勅令は、キリスト教のみな らず、他のいかなる宗教をも実践す ることを認めました。勅令の二番目

の部分では、かつてキリスト教徒の 集会所や礼拝所であった場所、および、迫害中にローマ帝国の行政機関 により没収され個人に売却されたキ リスト教徒の他の資産を返還するこ とが規定されました。

勅令はキリスト教に特別な地位を与 えるどころか、あらゆる宗教の好意 を得ようとしていたように思えま す。コンスタンティヌスはキリスト 教を優遇しながらも、一時期「不敗 の太陽神」信仰を続けていました。 いずれにしても、異教信仰は帝国の 正式な宗教ではなくなり、勅令はキ リスト教徒が他の市民と同等の権利 を享受できることを認めました。こ の時以降、教会は合法的な宗教とな り、帝国からの法的な承認を得て、 キリスト教風降の道が開かれたので す。

参考書: R. JIMÉNEZ PEDRAJAS, "Milán, Edicto de", en GER XV, Rialp, Madrid 21979, 816-817; M. FORLIN PATRUCCO, "Edicto de Milán", en Diccionario Patrístico y de la Antigüedad Cristiana (ed. A. DI BERARDINO), Sígueme, Salamanca 1991, 664; A. FRASCHETTI, La conversione. Da Roma pagana a Roma cristiana, Laterza, Bari 1999.

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/iesu-shitsumon-52/ (2025/12/12)